

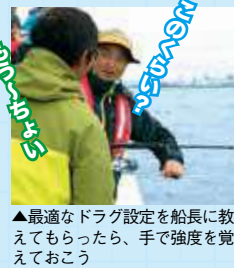
#Prepare タックルの方程式

ラインシステム>ロッド&リール

●ロッドはシイラやシーバス向けのオフショアキャスト用が最適。2メートル前後と短めのほうが取り回ししやすい。ジャッカルでは汎用性の高いキャストロッドGSW-S68Lがオススメだ。リールはシマノなら4000~5000番台のスピニングリールがジャストサイズ。とにかくハイスピードな魚なので、ギア比が高く早巻きできるHGやXGがいいだろう。ドラッグは締めすぎても緩めすぎてもNGなので、最初は船長に見てもらったほうがいい。とくに重視してほしいのはラインシステムだ。引きが強く歯も鋭い魚なので、PEはできれば新品の1.5~2号、リーダーはナイロンの50ポンドを選ぶ。1尾でもヒットしたら必ずリーダーをチェックし、傷んでいたら即交換しよう。

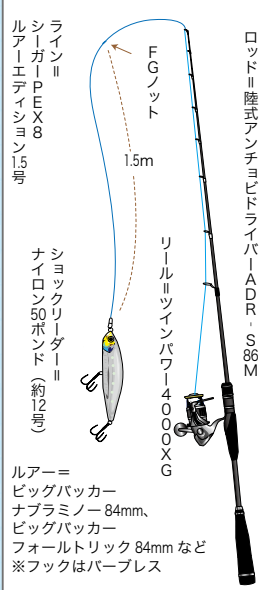


▲状況によってはジギングが有効なので、ベイトタックルの持ち込みもあり

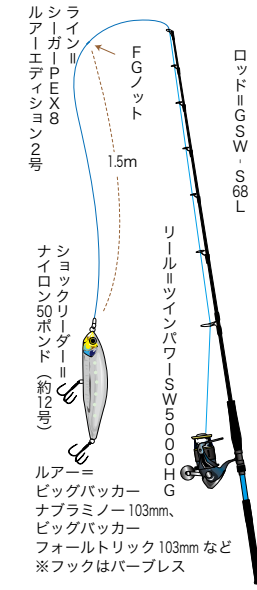


▲最適なドラッグ設定を船長に教えてもらったら、手で強度を覚えておこう

飛距離重視の場合



取り回し重視の場合



ヨッシーのサワラキャストタックル

#Prepare ルアーの方程式

ミノーを中心にシンペン、ジグも

●使うルアーは主に3種類。重めのシンキングミノー、シンキングペンシル、そしてジグだ。ミノーはただ巻きでもオートマチックにアクションするので扱いやすい。サワラキャストゲームのオールマイティルアーだ。波動は強めで、食いが立っているサワラにはとくに有効。ナブラ撃ちに活用したい。シンキングペンシルはリップがない分、波動は弱め。ロッドのジャーク次第でアクションを自在に変えられるため、うまくハマればひとり勝ちも。ジャーク中、ロッドが止まった瞬間のフォールで食ってくることも多い。「フォールトリック」は落下中にヒラヒラ舞い、サワラにアピールする。縦の動きに反応することも多いので、ジグも用意しておきたい。ベイトが小さいときにはシエルトの小さいタングステンジグが効果的だ。東京湾でもスピントールジグは実績がある。サワラは気分屋。日によって反応するルアーが異なるので、少なくとも「三種の神器」は用意したいね!



●キャストゲームは危険もいっぱい。フックのカエシは必ずつぶしてパースに



▲ヒットしたら、釣れた・釣れないにかかわらず必ずルアーとリーダーをチェック。ルアーはハリがのばされていることがあるし、リーダーの傷は致命的だ。決して多くはないチャンスをモノにしよう



▶バーチャル(垂直方向)だけでなく、キャストゲームでも使う。ベイトが小さいときに
 ●メタルジグ
 ビッグバツカー
 ジグ 30g
 ●スピントールジグ
 ビッグバツカー
 スピン 30g
 ▲東京湾で流行中! 大当たりすることもあるので、タックルボックスに忍ばせておこう



▲ただ巻きでアクションするミノーは食いが立っているサワラに効く。ナブラ撃ちに



▲波動が弱いシンペンは渋い状況で効果を発揮することも。アクションに工夫が必要だ

「回して回して!」
 船長の誘導したとおり魚を動かす。頭からネットに入れる。
 「入った! 緩めてね!」
 「入った! 緩めてね!」
 「巻いて、もつと巻いて! リーダー全部巻き込むくらいでいいから」とタモを構えた船長から指示が飛ぶ。そのほうがフックオフしてもルアーが飛んできつらく、魚をコントロールしやすい。
 「回して回して!」
 胸の間でヤリトリが始まる。竿が大きく曲がり、さらにグイグイと引き絞られる。
 「本命だ!」
 「本命だ!」
 「巻いて、もつと巻いて! リーダー全部巻き込むくらいでいいから」とタモを構えた船長から指示が飛ぶ。そのほうがフックオフしてもルアーが飛んできつらく、魚をコントロールしやすい。
 「回して回して!」
 船長の誘導したとおり魚を動かす。頭からネットに入れる。
 「入った! 緩めてね!」
 「入った! 緩めてね!」
 「巻いて、もつと巻いて! リーダー全部巻き込むくらいでいいから」とタモを構えた船長から指示が飛ぶ。そのほうがフックオフしてもルアーが飛んできつらく、魚をコントロールしやすい。
 「回して回して!」

連載 吉岡進の 新世代 沖釣り方程式 第6回

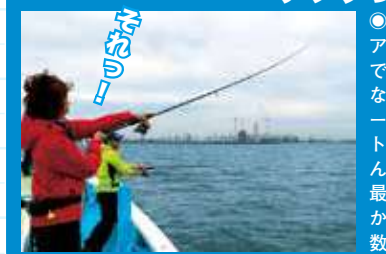


東京湾のサワラキャスト

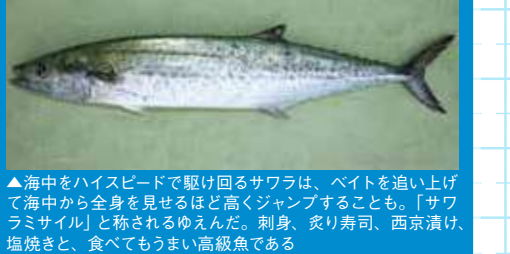
先生◆よしおか すずむ
 新型コロナウイルスの感染予防に最大限配慮しながらも、忙しく全国の船に乗り、多くの沖釣りファンたちとの交流を楽しむヨッシー。船を降りてからもそのまま竿を担いで陸っぱり。タックルさえあれば永遠に釣り続けているのではないかという、夏休みの少年状態。今日どこかで竿を振っている。生徒◆たかはし ころ
 幼稚園のころから沖釣りをしているはずなのに、いつまでたっても上達しない「永遠の初心者」。釣りそのものより海に浮かんでいることに喜びを感じている様子で、うまくなる気配なし……。

◎エキサイトイング!
 エネルギーギッシュ! エクセレント!
 釣り人を興奮のるつぽに叩き込む、東京湾のサワラキャストゲーム。一瞬に懸けるスリリングな釣りは、ヨッシーの大好物だ。振り続けた竿が大きく曲がった瞬間、それまでの緊張感が弾け飛んだ。

#Target & Game guide サワラってどうやって釣るの?



●フィッシュイーターのサワラは格好のルアーターゲット。宙層を泳ぐ魚でジギングでも食ってくるが、エキサイトイングなのはなんといっても表層のナブラめがけてルアーを打ち込むキャストゲーム。ベイトを海面まで追いつけ、捕食する気満まんサワラの狙い撃ちに成功したときは、最高の充実感が得られる。東京湾では秋から冬にかけて、ベイトのイワシを追った多数のサワラが湾奥まで入り込む。



▲海中をハイスピードで駆け回るサワラは、ベイトを追い上げて海中から全身を見せるほど高くジャンプすることも。「サワラミサイル」と称されるゆえんだ。刺身、炙り寿司、西京漬、塩焼きと、食べてもうまい高級魚である

「出た! 出たぞナブラだ!」
 船が速度を落とした瞬間に、「投げます!」というかけ声。ヒュン、と竿が振られ、爽やかにルアーがカッ飛んでいく。
 「くるよ、くるよ!」という渾身の叫びが東京湾に轟く。
 「巻いて、もつと巻いて! リーダー全部巻き込むくらいでいいから」とタモを構えた船長から指示が飛ぶ。そのほうがフックオフしてもルアーが飛んできつらく、魚をコントロールしやすい。
 「回して回して!」



▲釣り場は浦安~五井沖の水深10メートル前後

#Report ヨッシーの実釣レポート

高速巻きを駆使して 価値ある1尾をゲット!

●結論からいうと、オレのサワラは1尾で終わり! 正直言って大満足だ! 負け惜しみじゃないぞ。というのは、ナブラが立たないこともザラな釣りなのに、この日は何度もナブラが見られたからだ。それだけでもよかった(笑)。オレが釣ったのはナブラなしのブラインドで、釣れている人を見ていたら早巻きが有効そうだったので、コピーしてみたのヒットだった。高速巻きでもバランスを崩さないナブラミノーの特性を生かしながら、リアクションバイトをうまく引き出せたかな。当日は船中14尾! オデコの人もいた一方で、一人で5尾を上げた人も。気まぐれでその日によってパターンが異なるサワラ

▶当日最大 5.3キロを筆頭に5尾で竿頭。お見事です

▼船中第1号を釣り上げた工藤くん



▲ドンビシャのタイミングで投げると食ってきた
▲イナダも交じった

▲当日釣れたサワラは3キロ級が主体だった

#Solution 東京湾のサワラキャストの解

サワラの気分をいち早く見抜け!

●釣り方を超カンタンにまとめれば、「投げて巻く」。基本的にはそれだけの釣りだけど、そうカンタンじゃない。サワラ的气まぐれさと、船の上で投げるといふことの合わせ技で、奥深さが増しているんだ。ナブラが見られるかは魚次第。必ず起こるわけじゃないという点でもギャンブル性が高い。だれにでも気軽にすすめられる釣りではないけど、ハマる人は抜け出せなくなる中毒性の高さが魅力だね。オレももちろんハマっている側の一人(笑)。ナブラを目にするだけで興奮するのに、そこに狙いどおりにルアーを撃ち込んでドンとヒットした瞬間は、最高としか言いようがないよ。法則はただ一つ、当日のサワラの好みをいち早く見抜くこと。早巻きか、ゆっくり巻きか、横か、縦か。幅広く試してみるという柔軟な発想が大切な。釣り以外に気を付けるべきことが多いけど、やっているうちに必ず慣れるものでもある。頑張ってください! (笑)



▲釣行当日は高速巻きがヒットパターンだったが、別の日と同じとは限らない。引き出し全開で色いろ試してみよう!

▲難易度が高いだけに、狙いどおりに釣れたときは最高に気持ちいい! 中毒性が高く、ハマる人が多いのもうなずける

#船宿インフォメーション

東京湾奥深川 さわ浦丸

☎03-3630-4751
(詳細は巻末の情報欄参照)

- 料金=サワラキャスト予約乗合一人9900円(氷付き)
- 備考=出船時間は電話にて確認。清澄白河駅より徒歩5分。



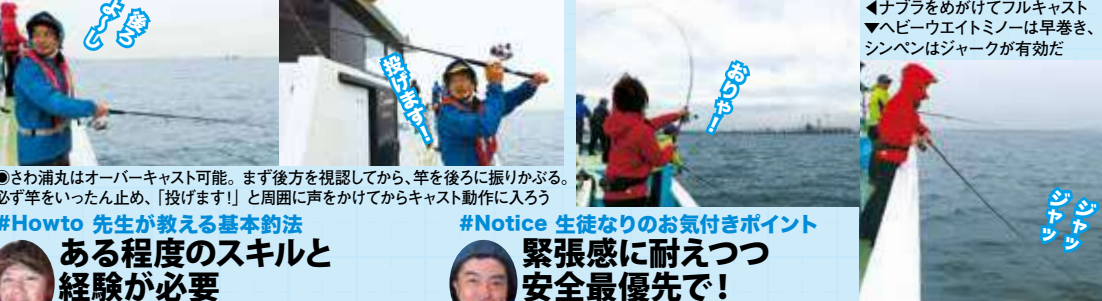
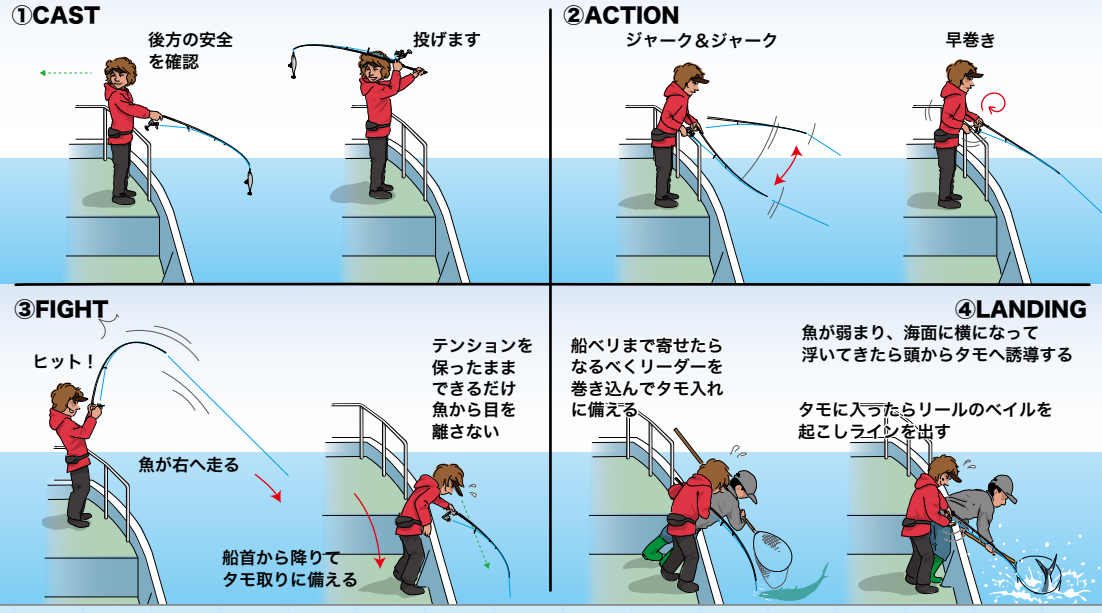
▲ミヨシのお立ち台は広いので5人同時に釣りができる
▼19トンの大型船、第十六さわ浦丸で快適にキャストゲームが楽しめる



●サワラキャストは、船によってスタイルが色いろ。さわ浦丸はナブラ撃ちが中心で、お立ち台をローテーションする方式だ。これがまたエキサイティング! マグロのキャストゲームに匹敵する緊張感と興奮を楽しめる。さわ浦丸は、明るい中にもどこかインテリジェンスがにじみ出る(?) 澤浦晋祐船長を筆頭に、スタッフさんながらサポートしてくれる優しい常連さんも多く、初めて挑戦するにも最適。ただ、分からないことをそのままにせず、積極的に質問することも大事。みんな必ず親切に教えてくれるし、そのほうがずっと安全だよ。

サワラキャストのツボ

※オーバーヘッド禁止、アンダーハンドキャストのみの船もありますので必ず確認してください



●さわ浦丸はオーバーキャスト可能。まず後方を視認してから、竿を後ろに振りかぶる。必ず竿をいったん止め、「投げます!」と周囲に声をかけてからキャスト動作に入ろう

▲ナブラをめがけてフルキャスト
▼ヘビーウェイトミノーは早巻き、シンペンにはジャークが有効だ

#Howto 先生が教える基本釣法

ある程度のスキルと経験が必要

●ゴーさんを見ていて改めて分かったけど、サワラキャストゲームにはある程度のスキルと経験が必要だね。釣りという側面では、まずルアーを正確に投げられなくちゃいけない。オレの考えでは、飛距離よりも方向を定められることが重要な。狙いどおりにナブラに撃ち込みたいからね。ゴーさんはギリギリOKだったけど(笑)、キャストゲーム経験の少ない釣り人も多いから、ある程度の「投げスキル」は必要だ。揺れる船の上からの動作になるしね。そしてなにより大事なものは、船長や周りの人たちとコミュニケーションが取れるかどうか。最初は分からないことが多いだろうから、船長にあれこれ聞かなくちゃいけないし、投げるにあたっては、また、ヒットしたときには周りの人に声をかける必要もある。とかく声を出す釣りだから、コミュニケーション能力が求められるんだ。正直、ハードルはあるけど、それを乗り越えて得た1尾がまた格別なんだよね。

#Notice 生徒なりのお気付きポイント

緊張感に耐えつつ安全最優先で!

●やや尻込み気味だったが、やってみたらやっぱり難しかった(笑)。興奮のなか、安全最優先の作法を覚えるのでめいっぱいだった。ナブラ撃ちでワンヒットしたが、お立ち台から降りるのに戸惑っているうちに痛恨のバラシ……。隣の人のコミュニケーション不足もあったかな。いろんな意味で、沖釣りのすべての要素を高い次元でまとめる必要がある、と感じた。コレがうまくこなせれば釣り人としてのレベルが上がらそう気がしたよ!



▲タカハシゴーにサワラがヒット! お立ち台から降りるのにモタついているうちに(よく分かっていなかった?) バレってしまった

も今回、初めて東京湾のサワラのキャストゲームに挑み、なんとかなった。... なったのかなあ? 事前に本誌などで大いに勉強させてもらったが、それでも思うようにはいかない。お立ち台からナブラにミノーを投げ込み、ヒットはした。船から魚影が見える程度まで魚を寄せることはできたが、結果的にはバラしてしまった。それでも、常連で、ほぼ仲乗りとして活躍している工藤くんも、「あれはサワラだったね」と言ってくれたから、初めてのサワラキャストゲームとしては満足だ。何よりも無事に船を降りることができた。だれにもケガをさせず、自分もケガをなかった。最初の一步としては上出来だ。非日常的な緊張感こそが、サワラキャストの魅力だ。いつ起こるか分からないナブラを追い、ワンチャンスに懸け、モノにする。しかも、無事に。テクニクとメンタルの両方が求められる時間は、オフショアキャストゲームの醍醐味である。ヨッシーはブラインド(ナブラが立っていない状態での釣り)で見事に本命のサワラを手にした。興奮のつぼのような船中で冷静に状況を見極めての勝利だった。そう、まさに「勝利」という言葉がふさわしい。ヨッシーは戦いに勝ったのである。そういえばサワラという魚、デカイトロフイのように見えなくもない。